

■（公社）日本地すべり学会関東支部 令和5年度現地検討会 開催報告 「河振地すべり防止区域（群馬県甘楽町）」

（公社）日本地すべり学会関東支部

1. 実施概要

本年度は、群馬県西部農業事務所のご協力を得て「河振地すべり防止区域（群馬県甘楽町）」を対象とした現地検討会を実施しました。

河振地すべりは、群馬県南西部を流れ鑓川の支流雄川上流左岸、標高400m～700mの南向き斜面に位置する農地地すべり防止区域です。奥行き0.8kmの大規模な地すべりです。

令和元年の台風19号により地すべりが滑動し、末端付近を横切る県道富岡神流線と直下を流れる一級河川雄川護岸が被災し、その後県土整備部により復旧対策が行われています。今回の現地検討会では、ボーリング調査の結果や地すべり地の計器観測等に加え、施工済みの対策工の見学を通し、地すべり対策の理解を深めることを目的に開催いたしましたので御報告します。

- (1) 開催日：令和5年10月26日（木）
- (2) 開催場所：群馬県甘楽郡甘楽町秋畑地区
- (3) 主催：（公社）日本地すべり学会 関東支部
- (4) 協力：群馬県西部農業事務所
- (5) 参加人数：12名

2. 検討会の内容

最初に、群馬県西部農業事務所より河振地すべりの概要、対策工状況などをご紹介いただきました。その後、河振地すべりの末端付近にある集水井の中の状況を観察しました。さらに、群馬県西部農業事務所及び当該地すべり地で動態観測・対策を受託する日本サーベイ株式会社小林豊様の案内で、地すべり内に設置された孔内傾斜計、水位計並びに集水ボーリング工などを見学しました。

午後は、当該地すべりで採取された調査ボーリングのコアの観察会を行いました。観察会では、多数のボーリングコアを間近で観察し、コアにみられるすべり面の性状の特徴を勉強しました。さらにボーリングコアと午前中に観察した対策工・計器観測の結果を踏まえて、地すべり全体の動きや特性等について白熱した議論が行われました。

最後に、地すべり下方に位置する雄川河床にて、当該地域を構成する三波川帯の片理の発達した結晶片岩や緑色片岩（御荷鉢ユニット）の露頭を観察しました。残念ながら、以前確認されていた露頭の一部が工事等により消失していましたが、片岩などの当該地域を構成する地質の露頭を観察することができました。

今回は、河振地すべりについて、地すべりの概要や地すべり対策工・動態観測など、地すべり対策について一通りの内容を見学し、大変わかりやすく良い経験ができたと考えております。

3. おわりに

関東支部では、今後も現場に密着した講習会や現地検討会に加え、学生・若手技術者の育成をテーマとした活動を実施していく予定です。

最後に、現地検討会の開催にあたり、御協力を頂いた群馬県西部農業事務所の皆様、また、現場案内を頂いた日本サーベイ株式会社の小林豊様・関様には大変お世話になりました。ここに記して、厚く御礼申し上げます。



写真-1 地すべりブロック内での地形観察状況



写真-2 コア観察会の状況

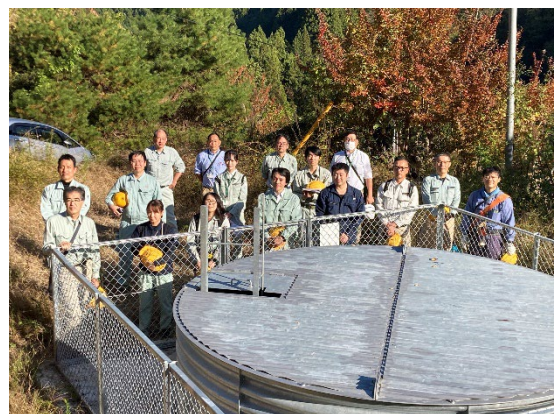


写真-3 集水井前にて記念撮影

（関東支部幹事会 松田昌之）